



JICA ルサカ郡1次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト



写真: 2022年5月3日にチャワマ総合病院で行われた必須医療機材の供与式に参加した日本側とザンビア側の代表団

JICAプロジェクト
5つの病院を対象
に1000万クワチャ
(6400万円)の
必須医療機材を
供与

JICAプロジェクト
ガンカ保健省次
官(プロジェクト・デ
レクター)を表敬
訪問

フォト・フォーカス
マテロ総合病院手
術室での無影灯設
置作業



JICAプロジェクト 5つの病院を対象に 1000万クワチャ(6400万円)の必須医療機材を供与

プロジェクトによる5つの対象病院への最初の医療機材の提供は2021年7月、その後9月に開始されました。これらの供与機材は、主にCovid-19の緊急対応用として、合計140万クワチャ(約760万円)の費用で調達されたものです。ご承知のように、医療機材の提供は、プロジェクトの活動3「医療機材管理・メンテナンス」に含まれています。本プロジェクトの医療機材提供の目的は、ケアと治療の質を強化し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成することです。



シルビア・マセボ保健大臣の代理としてスピーチをするカソソカ保健省次官(左)と大湊参事官(中央)、米林JICA事務所長(右)



チャワマ総合病院での引き渡し式でゲストをもてなすカルチャーグループ



供与式でスピーチを行う、JICAザンビア事務所 米林徳人所長

1 40万クワチャの医療機材に加え、1000万クワチャ(6400万円)の必須医療機材の調達を決定しましたが、プロジェクトはその手続きに5ヶ月を費やしました。これは、調達リストの各項目について、5つの総合病院の臨床工学技士や病院長、ルサカ州保健局の医療機材担当責任者と協議し、ルサカ州の保健局長との合意を経て決定したためです。さらに、COVID-19の影響により、医療機材の輸入、調達に大変苦労しました。

プロジェクトでは、納期、製品の品質、修理が必要な場合のスペアパーツの有無などを考慮しました。調達に成功した後、契約業者を通じて医療機材が国内に到着すると、プロジェクトは各病院への配送プロセスを開始しました。ユーザートレーニングが必要な機材については、プロジェクトが医療機材エンジニアを派遣し、機材の使用方法やメンテナンス方法についてスタッフに指導しました。プロジェクトは、施設用に調達したすべての機材が納品され、いくつかの施設ではすでに使用されていることを確認できました。

2022年5月3日、上記を踏まえ、対象病院の一つであるチャワマ総合病院にて、医療機材の正式な引き渡し式が行われました。式典は、地元のダンスグループによる文化的なダンスで彩られ、朝から夕方

までゲストを楽しませてくれました。JICAザンビア事務所の米林所長、日本大使館の大湊参事官、ムワレ州保健局長、法月チーフアドバイザー、5つの病院の院長、病院管理者、看護師、州保健局職員、JICAザンビア事務所員、地域の区議会議員、報道関係者、そして主賓のマセボ保健大臣の代理としてカソソカ保健省次官がこのイベントを支えたのです。

JICAザンビアの米林所長は、「国の発展にとって医療資本の整備は非常に重要であり、JICAザンビアは病院運営管理プロジェクトを通じて質の高い医療を実現することを約束する」と述べ、機材の引渡しを行いました。また、今回引き渡された機材は、現場の病院のニーズを的確に反映したものであると述べました。一方、日本大使館の大湊参事官は、寄贈された機材によって、病院が人々に効果的にサービスを提供できるようになると述べた。ザンビア側がこれらの必要不可欠な機械や装置を良好な状態で維持することを期待しています」と述べた。また、医療分野におけるザンビアと日本の関係は、今後も深化していきだろうとザンビア国民を喜ばせました。

ザンビア保健省を代表して機材を受け取ったカソソカ次官は、病院でのケアの質の継続的な向上は、同省のリファラルシステムを強化し、混雑を緩和し、公平な人間・社会経済発展をもたらすと述べました。



供与式の間、プロジェクトが設置した医療機材ブースで遅野井医務官(在ザンビア日本大使館)に説明する法月チーフアドバイザー



ZANIS(ザンビアンニュース情報サービス)から取材を受ける法月チーフアドバイザー

JICAプロジェクト カソカ保健省次官(プロジェクト・ディレクター)を表敬訪問

プロジェクト・マネージャーであるルサカ州保健局のムワレ局長と法月チーフアドバイザー率いるプロジェクトチームは、プロジェクト・ディレクターであるザンビア保健省のカソカ次官(医療サービス担当)を表敬訪問しました。会議ではまず、プロジェクトの法月チーフアドバイザーがプロジェクトの目標と活動内容を含むPDM案を説明し、これまでの現場での成果を次官に伝えました。

カソカ保健省次官は、PDMに設定された目標と活動に満足し、「これで考えがまとまった」と述べました。さらに、プロジェクトの柱で強調されている問題は、次官が以前、ザンビア大学付属教育病院の院長をしていたときに経験したことと全く同じであったとも述べています。「私は、これらの問題のほとんどが直接対処できるものであることを理解しています」。さらに次官は、施設のリーダーは常に人々をテーブルに着かせ、ビジョンを伝える必要があることを強調しました。プロジェクト・ディレクターとして、プロジェクト計画のほとんどの作業が終了したことを喜んでおり、プロジェクトを成功させ、2022年6月10日の合同調整委員会に向けてすでに活動を開始していることを確認しました。



プロジェクトチームは、保健省の次官室にてカソカ保健省次官を表敬訪問



編集・デザイン: Mutuna Musonda

編集長: 法月正太郎

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

E-mail: cassiopeia.project.zm@gmail.com

Website: <https://www.jica.go.jp/project/english/zambia/023/index.html>

マテロ総合病院手術室での無影灯設置作業